

令和7年度 園 評 価

大垣市立丸の内こども園

【園の教育目標】 生き生きと遊び 心豊かな子  
元気な子・仲良くする子、がんばる子

【令和6年度の園評価より】  
・園外保育では天候や時期を見ながら積極的に出掛け、体力がつくようにしていく。  
・異年齢での活動や遊びでは、未満児と幼児が無理なく関われるようにちを工夫していく。  
・クラスで飼育している生き物を紹介し合っって興味や関心ももてるようにしていく。  
・子どもの思いを受け止めながら一緒に環境づくりをし、主体的に遊びを展開できるようにしていく。

4段階評価 ○保育者 ☆関係者 ●課題

観 点	短期目標	自己評価	保護者評価	評価及び意見の概要
保育・幼児教育を支える 基礎の強化 危機管理	子どもたちが命を守るための行動を理解できるようにする。	3.6	3.4	○保育者が年齢に合った伝え方をすることで、子どもたちが危険な遊び方やしてはいけないことに気付き、声を掛け合うようになった。 ○経路や避難場所、内容を変え今まで行っていない訓練を行う中で職員は様々な状況に合わせた対応ができるようになり、子どもたちも自ら行動できるようになった。 ○保護者に園だよりやクラス掲示等で訓練の様子を知らせ、園の災害対策を伝えることができた。 ☆危険なことに自分で気付ける力、いざという時に自分を守る力が継続的な訓練を通して身に付いていると感じる。 ☆自然災害は予測できないため、防災意識の向上は子どもだけでなく職員においても大事なことである。あらゆる状況を想定して訓練することを継続して行ってほしい。 ☆保護者に園での訓練の様子を知らせていくことは、家庭で災害の時の対応について話すきっかけになる。
保育・幼児教育の充実 健康的な体づくり	十分にのびのびと体を動かして遊ぶ。	3.6	3.6	○元気タイムを位置づけ、それぞれの年齢に合った遊びを1日1回取り入れてきたことで、のびのびと体を動かして遊ぶことを楽しめるようになった。 ○継続してなわとびやボール遊び、リズム遊び等を行うことで子どもの意欲が高まり、できることが増えて自信につながった。 ○園外保育は時期によっては行けないことがあったが、異年齢と一緒に出掛け、全体としては昨年度より回数が増えた。スイトピアセンターや四季の広場等、様々な場所へ行くことができ、体づくりと共に地域を知る機会となった。 ☆小さい頃から体を動かして遊ぶことを楽しむ活動が大切で、年齢に合わせて体づくりをしていることはよい。乳幼児期に体の使い方の基礎を体験の中でつかめるように、日々の積み重ねを大切にしていってほしい。 ☆園庭で元気に遊ぶ姿をよく見かける。楽しく体を動かして遊べるように工夫していることで、健康づくりにつながっている。 ●体を動かすことが自然と身に付くように、普段の生活の中で体を動かす工夫をしていきたい。
	友達や異年齢児、身近な人と触れ合い、いたわりや憧れの気持ちをもつ。	3.4	3.6	○5歳児と未満児との交流を計画的に行う中で、大きい子が小さい子に優しく関わる姿がよく見られるようになった。 ○外遊びや遊戯室での活動、園外保育等を通して異年齢に関わることができ、他クラスの子の名前を覚えて呼び合ったり、姿を探して一緒に遊んだりするようになった。 ○地域やボランティアの方との交流は無理なく行うことができ、今年度は3・4・5歳児が施設訪問をすることができた。子どもたちは自ら挨拶し、感謝の気持ちを伝えるようになった。 ☆異年齢での触れ合いを通して仲間や友達大切にしている気持ちが育ち、優しさが身に付く。日常の中で異年齢と触れ合えるように工夫していることで、親しみをもって関わるようになっていくと感じる。 ☆地域やボランティアの方等、様々な人との関わりをもつことで優しさが育つ。人と触れ合う心地よさを感じることは今後、大切な力となる。 ●言葉で思いを伝え合えるように、日常や遊びの中で年齢に応じた言葉の育ちを援助していきたい。
	生き物に関わる中で、親しみをもつ。	3.8	3.8	○玄関やクラス前に生き物を置くことで多くの子が見るようになり、登降園時に親子で観察しながら会話をする姿がよく見られた。 ○部屋で飼育しているものを紹介し合ったり、生き物の掲示物を見たりする中で生き物への関心が深まり、友達と図鑑を見ながら観察したり調べたりして世話をするようになった。 ☆生き物と関わることはなかなか家庭ではできない体験で、触れたり飼育したりする中で命の大切さに気付き、豊かな心が育まれる。
	様々な活動や遊びに興味をもち、主体的に遊びを展開できるようにする。	3.4	3.6	○遊びの中で自分のやりたいことや思いを伝えられるようになり、保育者や友達と関わって遊ぶ姿が増えた。 ○子どもの興味や思いを受け止めながら遊びの環境を整えることで、主体的に遊びを楽しめるようになってきた。 ☆子どもたちのやりたいことができる環境を大切にしていることで子どもの心が動き、夢中になって遊べていると感じる。 ☆子どもたちが遊びを見つけ、自ら工夫しながら楽しむ環境を工夫されていて、遊び込んでいる様子が分かる。遊びを通して想像力が豊かになるので、引き続き、環境づくりを大切にしていってほしい。
精神的発達 幼保連携	小学校との交流を通して、親しみや憧れの気持ちをもつ。	3.4	3.2	○園と小学校が隣接している良さがあり、園外保育の途中で小学生の様子を見たり小学校の遊具で遊んだりすることができた。 ○5歳児は交流以外に小学校のプールに入り、1年生の授業の様子を見せてもらって1年生への期待が膨らみ、挑戦意欲が出てきた。3・4歳児も小学校の運動会練習を見る機会があり、小学校の様子を感じることもできた。 ○1年生に園に来てもらってドッジボールをしたり生き物と触れ合ったりしたことで、小学生への親しみが深まった。 ☆小学校や近隣の園との交流ができていてよい。交流を通して小学生への憧れや親しみをもつことにつながり、小学生が園に来てくれると様々な年齢の子が触れ合える場になる。 ☆園と小学校の職員同士の連携ができていて、入学後の生活がスムーズになっていると感じる。
	保護者や地域と連携を図り、情報共有する。	3.6	3.6	○保護者に配信を利用して知らせるものを増やしたことで園の活動に対する理解につながり、家庭で園でのことを子どもと話す機会が多くなったとよく聞く。 ○地域との連携を大切にし、毎月地域だよりを配布して園の様子を知らせたり、地域の方との交流で情報共有し合ったりすることができた。 ☆様々な方法で園での活動や子どもの様子等を保護者に伝え、子どもの育ちと一緒に考えていくことは大切である。 ☆保護者や地域に園のことを細やかに配信していることで、園への信頼感、子どもたちの見守りにつながっていると感じる。 ●保護者に保育者の願いや育てていきたい力等、保育の意図を伝えられるように発信していきたい。

【次年度に向けて】

- ・普段の生活の中で体を動かして遊べるように環境を整え、活動と活動の合間を活用していく。
- ・保育者や友達と様々な経験をする中で自分の思いを表現し、相手の思いにも気付けるようにしていく。
- ・保育の意図や子どもの育ちをおたよりやドキュメンテーション等で保護者に分かりやすく伝え、家庭との連携につなげていく。